

# S クリート CA+

コンクリート用カルシウム付加剤

## 施工要領書

**BIRCS**

株式会社バークス環境

## 施工基準 (Standard application procedures)

### 塗布可能な素地

コンクリート・セメント系の素地

### 施工前の確認事項

- ・ S クリートCA+は経年劣化したコンクリート内の水酸化カルシウムを補填し、S クリートアップ・S クリートアップLiの反応を高めるためのものです。 築 30～40 年経過し、特にエフロが多いコンクリートに有効です。 新築や経年劣化(10～20 年)が小さいコンクリートには必要ありません。
- ・ 施工可能環境は 5 度以上、45 度以下の範囲です。

### 施 工

#### 1. 準備

温度を確認(5℃以上 45℃以下)してください。

#### 2. 養生

ガラス、鉄部、アルミサッシ、樋、手摺、自動車など。

- ① 特にスプレーを用いて施工を行う場合には、周囲に液剤が飛散するおそれがありますのでしっかりと養生を行ってください。
- ② ガラス、鉄部、アルミ等浸透しない物質に付着すると、乾燥後に白い結晶が付着する場合がありますので、しっかりと養生を行ってください。

[注意] S クリートCA+はコンクリート物質にのみ有効です。

#### 3. 下地処理

- ・ 清掃・洗浄

素地表面が汚れている場合には、高圧洗浄またはケレン処理などで施工面のカビや苔、油脂などの汚れを落としてください。

※ 高圧洗浄に際して酸性の洗剤を使用した場合は、必ずアルカリ洗浄剤にて中和処理を行ってください。(弊社にてアルカリ洗浄剤を提供しております)

※ 中和処理を行わずに S クリートCA+を塗布すると、S クリートCA+の効果が著しく低下します。

#### 4. 施工

施工道具：ローラー(短毛のウーローラー、マイクロファイバーローラー)、刷毛、噴霧器

・下地処理を終えたら刷毛・ローラー、またはスプレーを用いて S クリートCA+を塗布します。直接素地にSクリートCA+を塗布してください。素地が湿っている程度ならばSクリートCA+を塗布することができます。乾燥状態でも問題ありません。

・塗布は、1回目に塗布したSクリートCA+が十分に浸透した時点で、2回目の塗布を開始できます。1回目の塗布面が乾燥した後でも2回目の塗布を行えます。

・塗布・未塗布箇所の判別が困難なため、途中で作業を中断する場合には施工済みの箇所を区別できるような目印を入れてください。

・S クリートCA+塗布後、24 時間以上乾燥養生させてから、Sクリートアップ・SクリートアップLiを塗布してください。

[注意] ガラスや金属等に S クリートCA+が付着した場合、濡れタオルでふき取った後に、ブラシ等でこすりながら流水で洗い流してください。そのまま放置した場合、白い結晶物質が付着する場合があります。

#### 5. 標準使用量

##### S クリートCA+ 塗布量の目安

経年したコンクリート	3.3~4 m <sup>2</sup> /ℓ	(250~300cc/m <sup>2</sup> ) 2回塗布
経年したポーラスなコンクリート	2~3 m <sup>2</sup> /ℓ	(300~500 cc/m <sup>2</sup> ) 2~4 回塗布

#### 6. 乾燥時間

約 24 時間～数日(コンクリートの品質や環境によって異なります)

##### 使用上の注意

- ・ 降雨が予想される時には施工しないでください。必要に応じて養生を行ってください。
- ・ 環境温度 5℃以上から施工可能です。
- ・ 養生が必要な箇所：
  1. ガラス:付着すると結晶成分が析出します。なお、結晶成分はメタノールかシンナーにて除去できます。
  2. 金属類:金属類に付着すると結晶成分が析出します。
  3. タイル・石材:結晶成分が析出し、白く結晶化します。

※もし付着した場合、速やかにウエス等で拭き取れば問題ありません。

- 塗布後は 24 時間以上乾燥養生してください。
- 原液のままご使用ください。水で希釈しないでください。
- 現場周辺住民や現場作業者の安全確保のため、材料が周辺に飛散しないように飛散防止措置を行ってください。
- 余った材料を処分する際は、必ず専門処理業者に依頼してください。
- 材料が目や口に入った場合や、直接皮膚に触れた場合には、直ちに流水で洗い流してください。異常を感じた場合には専門医に相談してください。

#### 【その他】

1. 使用前の色：無色透明
2. 表面の仕上がり：変化なし。

#### 【荷姿】

18L 缶・4L ポリ容器